

### 【本園の教育目標】

- 強い心、あきらめない心を育てる。
- 感情を刺激し、豊かにする。
- 基礎体力をつけ、体幹を鍛える。
- 自立する人間の土台を作る。

### 【令和元年度 重点的に取り組む目標と計画】

- 《年長》 友達と共通目的を持って活動を進め、充実感を味わう。
- 《年中》 友達とかかわり遊びや活動を展開する楽しさや喜びを味わう。
- 《年少》 園生活での決まりや習慣を理解して生活できるようになる。

### 《令和元年度の取り組み》

- ・園児の安全を第一に考え年度始めに危機管理についての園内研修を行い、各安全マニュアルを再考・共有し園全体の意識を高める。地震・大雨・台風災害における対応について年間通して定期的に話し合いを重ね、各々の職員の役割を明確にし共有することで災害時の安全対策への判断力・対応力をつけていく。豊中警察に協力を得て教職員の不審者対応の実践を行った。
- ・全職員が保育の質を高めていくことに努めるため協議の時間をもつ。皆で見守り育ち合えるように、日々の保育の振り返りの時間を大切にし、改善していく。園内研修を月に一度行い、職員演習を通して職員全体の保育技術の向上を図る。
- ・自園の特色保育内容や子どもたちの園生活の姿を保護者へ伝えられるよう日々の働きかけを丁寧に行っていく。
- ・職員の保育内容、行事におけるねらいや目標を明確にし全職員が共通理解のもとで保育を行うことを目指す。行事アンケート等から保護者の意見要望・ニーズを聞き、職員間で話し合い、内容の見直しや保育の質の向上に繋げた。音楽・劇の発表会では、学年ごとの発表会からクラスごとの発表会になるように保護者のクラスごとの入れ替え制を導入した。
- ・通常の預かり・長期休みの預かり保育は予約制を導入し園児の安全を第一に考え行っていく中で近隣の小学校の行事に合わせて2クラスの預かり教室をつくるように柔軟に対応できるようにした。
- ・新型コロナウイルスのため3月は就労証明書が出ている保護者の園児のみの預かり保育を実施した。
- ・卒園式は三密を避けて、保護者の理解と協力得ながら、時間を最小限にして行った。

### 《特色のある取り組みについて》

- ・各家庭1輪の花を持ち寄りチャペルにて花の日礼拝を行っている。花も人も神さまから与えられ、守られ、愛されて育ったことを感謝し、友だちも周りの人も大切にできる気持ちを持つようなお話を静かに聞いていた。その後、年長組が園児代表として近所に方々に花束を渡し、園に協力していただいている御礼の気持ちを伝えた。
- ・年長組は1学期に大根の葉を育て観察したり記録にしたりして、毎日水を変え栽培に適した手入れや環境作りが重要であることを学んだ。お泊り保育では、子どもたちの姿から毎年内容を工夫しており、カブラ大会や雨の中、プール・泥遊びを全職員一丸となって行った。
- ・年少組は秋の遠足で緑地公園の植物園に出かけ、夏から秋への移り変わりを五感をつかって楽しんでいる。秋には年長・年中組は芋掘りに出かけ、後日、年長組が豚汁を作り食べ物を育ててくださる方、豊かな実りを与えてくれる神さまに感謝する気持ちを持ち全園児で収穫感謝礼拝を行っている。

- ・ 神さまのお話を聞いて、神さまからたくさんの愛をいただきます。  
 ころの栄養をいただき神様さまに愛され、一人ひとりがかけがえのない存在であることを伝え  
 人からも愛される子どもとなれるように毎月1回チャペル礼拝をもっている。  
 クリスマス時には「ページェント」（劇）を年長児で作り上げ、イエス様のお誕生をお祝いしている。  
 また、全園児と年長児の保護者でのとても静粛な雰囲気の中で行うクリスマス礼拝を行っている。
- ・ 毎日のお集り・食前にこども讃美歌やお祈りを通して、欠席した友だちを心配する等のおもいやりの心や  
 自然の恵みへの感謝の心を子どもたちの日常に添いながらわかりやすく伝えている。  
 また、上記に挙げた以外にも発表会やキリスト教の行事も行っている。  
 宗教を強要するのではなく、宗教を通じて心の教育をおこなうことを心がけている。

## 《総合的な自己評価結果・改善策》

- ①教育関係 ②実践力 ③管理力 ④関係性 ⑤適正に対する100項目を全職員が自己評価した。  
 子ども達の気持ちに寄り添いながら職員もともに育ち合えるように目標やねらいを持ち、振り返りながら  
 日々の保育を行っている。  
 以下の点には、改善・見直し・話し合いなどが必要とされる。
- ・ 危機管理においては日々訓練・職員間の話し合いの場を設けているが  
 保育時間中の災害時に各々が臨機応変に子どもたちの命を守るために動けるかを考える等  
 全職員の意識を高めていかななくてはならない。災害対応リーダーを配置し、緊急時の出勤体制を整えている。
- ・ 子どもたちの姿や子どもたちを取り巻く環境の変化から、子どもたちの安全を最優先に考えて、各種変更を  
 施した。  
 日々の保育の中においても子どもたちの成長・課題・職員の想いを保護者へ伝える際に誤解が生じないように  
 誠実にかかわることが必要である。常に基本的な挨拶の仕方・話し方から意識していかななくてはならない。
- ・ 今年度も年間計画や月案をもとに、子どもの姿を捉え、どんな保育内容にしようかと学年で話し合い、  
 改善したり修正したりしながら週案・日案を立てた。  
 風通しのよい職員関係作りを心掛け、コミュニケーションを大切にしている。  
 また保育経験に関わらず見通しをもったゆとりのある保育ができるように  
 声を掛け合ったりアイデアを出しあったりして、保育の質を高めあっていきたい。  
 また1人ひとりが向上心をもって学ぶ姿勢を持ち続けられるように意欲的に研修への参加し、  
 職員間で発表しあう機会をこれからも定期的に設けていきたい。
- ・ 地域との連携については、感謝の気持ちを忘れずに誠実に接していきたい。  
 また日常の保育の中で地域の方の温かい見守りを子どもたちに伝えていきたい。
- ・ 行事アンケートにより職員間の反省・意見交換だけではなく、より多面的に物事を考えて振り返る場を  
 もつことができた。また職員にとっても励みとなった。  
 子ども達一人ひとりの育ちを考え、互いを認め合うクラス運営を心掛け今後も  
 保育計画・保育内容を考えていきたい。

## 《今後取り組むべき課題》

- 子どもの育ちに繋がる職員の保育内容、行事におけるねらいや目標を明確にし、全職員が共通理解のもとで保育を行っていく。  
また、保育内容を見直し、柔軟に改善できるようにしていきたい。
- 他園経験年数、本園の経験年数と教諭の経験に違いがあるので、本園の保護者や子どもの姿を考察し全職員が保育の質を高めていくことに努めていきたい。  
またともに育ち合う姿勢を大切にしていきたい。
- 多様化する社会情勢に柔軟に対応していく中で、子どもたちの安全を第一によりよい環境設定を目指していきたい。慎重に協議を重ね、変更事項が生じた際は園だより・クラスだよりや懇談で誠実に保護者に伝え、これからも信頼関係を築いていけるように努めていきたい。  
また全職員が変更内容を把握しているつもりではあるが、保護者対応の際、答え方に差異が生じていないかどうかという点で留意していきたい。
- 送迎時になかなか会えない保護者との相互理解を図る努力を連絡帳・電話・個人面談等で職員が意識的に継続して行っていきたい。
- 園外研修で学んだことを職員会議などで発表するなかで実際の保育にどのように活かしていくべきかの協議も継続していく。

## 令和元年度（令和元年/4/1～令和2年/3/31）学校関係者評価

保護者会運営委員・クラス役員・運動会役員・行事委員に①入園する時の状況 ②年間教育・保育や行事 ③遊びについて ④生活について ⑤快適さや安全対策 ⑥園と保護者との連携・交流 ⑦教諭の対応 35項目の質疑応答を行った。総合満足度として保護者からは概ね5段階中5の満足の評価を得た。また、評価や行事アンケート中で日々の保育の励みになるような言葉をたくさんいただいた。以下の項目に関しては更なる改善と努力が求められた。

- 保育日数を増やして欲しい。
- クラス使いが読みやすくしてほしい。
- 教諭同士の連携・情報の共有が足りていないのでは。
- 園庭開放日を設けてほしい。
- 行事を増やして欲しい。
- 園での様子をもっと知りたい。聞きたい。
- 縦割りでの関わりの時間を増やしてほしい。
- 写真購入をネットでできるようにしてほしい。
- 給食をもっと充実させてほしい。

これらの改善点は真摯に受け止め、努力に加えて保護者の様々なニーズにも耳を傾けていきたい。